



ユーモアもあつて脳の活性化にも



計量川柳コンクールで市長賞
江利川 昭忠さん・76歳
南町三丁目

計量川柳コンクールが行われ、90作品の中から最高賞である市長賞に選ばれた。市民に計量をもっと身近に感じてもらうと、このコンクールは行われる。

「これまでにも受賞経験はありますが、今回は、最後の応募と自分で決めていました。最高の賞をいただき、本当にうれいす」

作品は「検針票 妻と互いに 目を通し」。水道のメーターを夫婦で確認しているところを詠んだもの。

「2人だけの生活だから、水道料金は毎月ほとんど同じなんです。ある時急に上がっていったんです。調べたら漏水していました。それまで、家のことについてほとんど無関心で、妻に任せていたんです。それではないですね。その後、検針票には

目を通すようにしています」
川柳は、気軽に作る事ができ、ユーモアもあつて、人を笑わせることができるところが好きだという。家では思い付いた時に書き留められるよう、手元には必ずノートとペンを置いておく。

「5年くらい前から脳の活性化の一つとして始めました。今では唯一の趣味です。こたつや、お風呂に入っていると頭にはつと川柳が浮かんでくるんですよ」

中央公民館では多くの人に支えられ、8年間働くことができた。日ごろから、人に感謝し、優しくすることを心掛けていくという。

「今後も、妻と支え合いながら、健康でありたいですね」と、明るく語ってくれた。

新成人ドームで門出盛大に

グリーンドーム前橋で1月13日、成人祝を開催。高木市長らのあいさつに続き、20歳の代表3人が決意を發表しました。新成人によるライブ演奏や大声コンテストなど催しも多彩に。式典終了後、会場の外では懐かしい旧友との再会に話も弾んでいました。



最先端のがん治療学ぶ

「生命都市いきいき前橋の新しい医療」をテーマに、市民講演会を1月20日、総合福祉会館で開きました。がんを切らずに治す世界最先端の重粒子線治療について、講演とパネルディスカッションを実施。参加者は熱心に耳を傾けていました。

夜遅くまで大盛況の初市

1月9日、中心市街地で初市まつりを開催。古くから子供のお焚きあげや渡御行列には、多くの見物客が詰め掛けました。だるまや縁起物などの露店が立ち並ぶ様子は壮観。夜遅くまでにぎわいました。



郷土作家たちの作品を堪能

1月17日から27日まで、市民文化会館で収蔵美術作品展を開催しました。市が収蔵する絵画の中で、郷土作家が女性を描いた作品を中心に展示。19日にはギャラリートークが行われ、多くの人が解説を聞きながら作品を味わいました。



若い芽のポエム

昨年度行われた第10回「詩のまち前橋若い芽のポエム」コンクールの応募作品から、小学生の部で入賞した作品を紹介。学年は応募当時のものです。

★入選 私は一人

一二之宮小5年

田中 光さん

私、一人かな。

ザザー

ザザー

森の水の音がする。

たきの音みたいなの。

ザザー

ザザー

だんだんむしあつくようになってくる。

今、どこ。

ザザー

ザザー

みんなの声も聞こえてきた。

「光ー。おーい」

私のことをよんでいる。

水の音へ近づいてゆこう

まわりがまっしろな、きり。

たきの音だけ聞こえる

私一人かな。

ザザーすごく大きな音になった。

「光ー。こんな所にいたのか。」

ザザー

ザザー

友達が森のようせいみたいに。

いつも、一人だと思っていた。

でも、一人じゃなかったんだ。

★入選 赤ちゃんのこと

荒牧小2年

比山 葵さん

あさおきたら

赤ちゃんのおおが

ぼくのかおの

まんまえにあつた

ぼくはおどろいた

赤ちゃんは

よだれをだした

よだれが

ぼくの口の中に入った

じゅるじゅるしていた

ちよつとすてきなにおいがした